

改良主義的な改変と革命的な改変

ポーランドの社会民主主義者は、われわれの綱領を「民族改良主義的な」と見ている。つぎの二つの実践的提案を対比してみたまえ。すなわち、(一) 自治制に賛成（ポーランドのテーゼ、第三章第四節）、(二) 分離の自由に賛成。われわれの綱領と彼らの綱領とは、この点で、ただこの点でだけ、ちがっている！ しかも前者こそ、後者とちがって、改良主義的なものであることは、明らかではないか？ 改良主義的な改変とは、支配階級がその支配を維持しながら行う譲歩にすぎず、支配階級の権力の基礎を掘りくずすことのない改変である。革命的改変とは、権力の基礎を掘りくずす改変である。民族綱領における改良主義的なものは、支配民族の**すべての**特権を廃止せず、完全な同権をつくりださず、**あらゆる**民族的抑圧を排除しない。「自治」民族は、「統治」民族と同権ではない。もしポーランドの同志たちが、(昔のわが国の「経済主義者」と同じように) **政治的な**概念やカテゴリーの分析を頑強に無視しなかったなら、彼らはこのことに気がつかなかったはずはない。自治的なノールウェーは、スウェーデンの一部として 1905 年までもっとも広範な自治を享有していたが、それでもスウェーデンと同権ではなかった。同国の自由な分離がはじめてその同権を**実際に**あらわし、それを証明したのである（ついでに言っておけば、このばあい、まさにこの自由な分離が権利の平等に基礎をおく、いっそう緊密な、いっそう民主的な接近のための土台をつくりだしたのである）。ノールウェーが自治しかもっていなかったあいだは、スウェーデンの貴族は**一つの**余分の特権をもっていた。そして、この特権は分離によって「よわめられた」のではなくて（——改良主義の本質は、悪を根絶するのではなく、それを**よわめる**ことにある）、**完全に排除された**のである（——これが、綱領における革命的なものの基本的な標識である）。

ついでに言うが、改良としての自治は、革命的方策としての分離の自由とは、原則的にちがったものである。これは疑いないことである。しかし、改良は、だれでも知っているように、実践のうえではしばしば革命への一步にほかならない。ほかならぬ自治こそ、ある国家の境界内に暴力的に引きとめられている民族に、最終的にみずからを民族として構成し、自分の力を結集し、それを認識し、組織化し、もっとも適当な時機をとらえて、…「ノールウェー人」ふうに精神で……つぎのように**声明する**可能性をあたえるのである。すなわち、われわれ、これこれの民族もしくは辺区の自治議会は、こんご全ロシア皇帝はポーランド国王でないことを宣言する、うんぬん。これにたいしては、こういう問題は戦争で解決されるものであって、宣言で解決されるものではない、とって「反論」するのが普通である。そのとおりである。それは大多数のはあいは、戦争によって解決されている（ちょうど、大国家の統治形態の問題が、大多数のばあい、戦争と革命によってのみ解決されているように）。だが、革命党の政治綱領にたいする**この種の**「反論」は理論的かどうかを、すこし考えてみてもよいであろう。われわれはいったい、プロレタリアートにとって正当であり有益であるもの**のための**、民主主義**のため**、また社会主義**のための**、戦争と革命に反対しているであろうか？

注) ……は本文中の略

第 22 卷 P402~403 『自決にかかする討論の総括』

1916 年 7 月に執筆

われわれが賛成する改良の綱領は、

…………軍備撤廃の要求の主要な欠陥も、やはりそれによって革命のすべての具体的な問題を回避していることにある。それとも、軍備撤廃論者は、まったく新しい種類の、武装のない革命を主張しているのでもあろうか？

さきへすすもう。われわれは、改良のための闘争に反対するものでは絶対でない。もし、大衆の激動と大衆の憤激とがおびただしく爆発しているにもかかわらず、われわれが努力しているにもかかわらず、いまの戦争からはまだ革命が生まれてこないとすれば、人類は、わるくすると、さらに第二の帝国主義戦争を経験するこのましからぬ可能性があるということ、われわれは無視しようとはおもわない。われわれが賛成する改良の綱領は、かならず日和見主義者にも鋒先を向けているような綱領でなければならない。もしわれわれが、改良のための闘争を日和見主義者だけにまかせて、われわれ自身は、かなしむべき現実から逃避して、「軍備撤廃」という雲の上のほととぎす国にかくれるなら、日和見主義者は喜ぶだけであろう。「軍備撤廃」はまさになしむべき現実からの逃避であって、これとの闘争ではけっしてない。

注) 雲の上の…………アリストファネスの喜劇『鳥』から来た言葉

第 23 卷 P88~89 『プロレタリア革命の軍事綱領』

1916 年 9 月にドイツ語で執筆

ポイント

改良主義的な改変とは、支配階級がその支配を維持しながら行う譲歩にすぎず、支配階級の権力の基礎を掘りくずすことのない改変である。革命的改変とは、権力の基礎を掘りくずす改変である。しかし、改良は、だれでも知っているように、実践のうえではしばしば革命への一步にほかならない。

だから、改良の要求は改良主義的にではなく、革命的に定式化して大衆に示すことが必要である。われわれが賛成する改良の綱領は、かならず日和見主義者にも鋒先を向けているような綱領でなければならない。